

経営比較分析表（令和6年度決算）

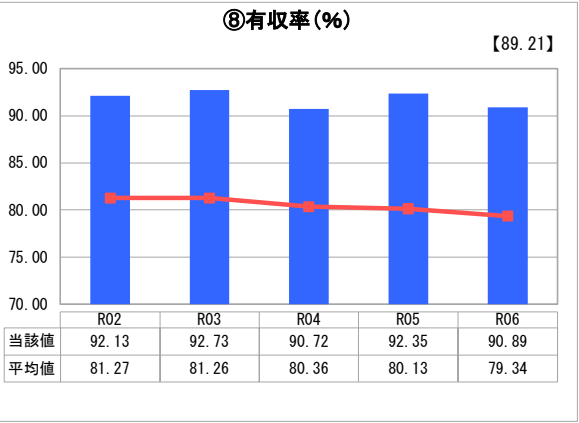
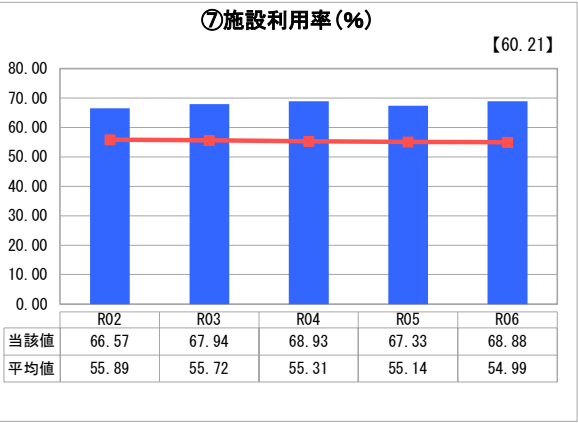
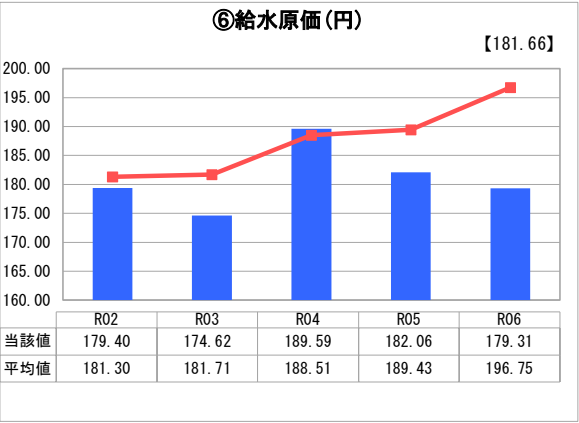
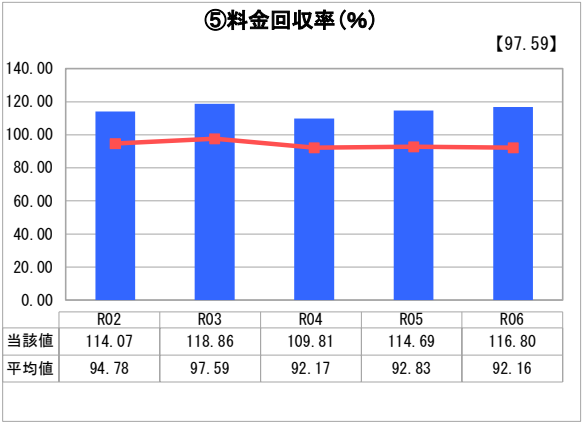
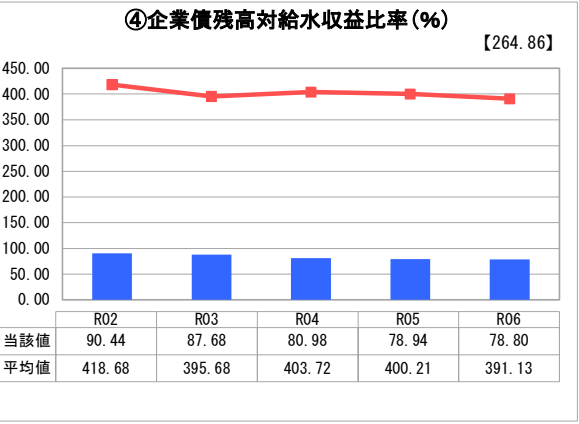
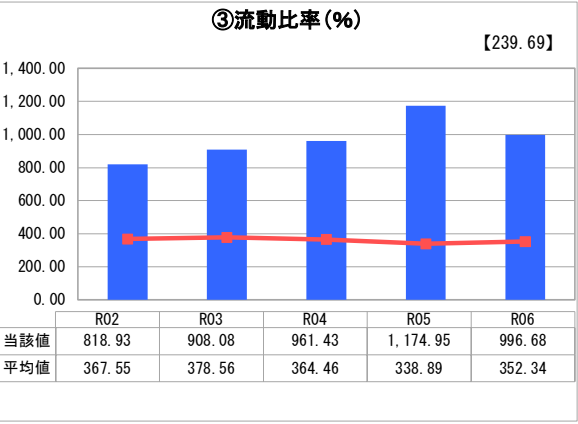
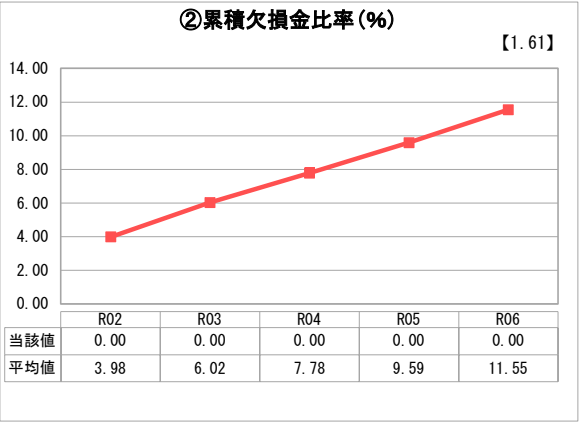
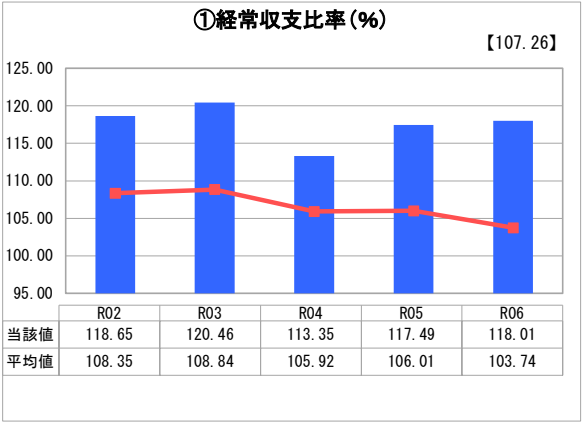
山形県 高島町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	91.55	99.33	3,850	

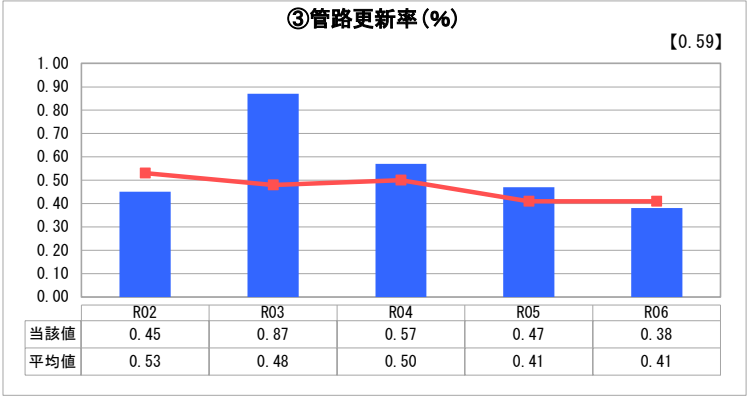
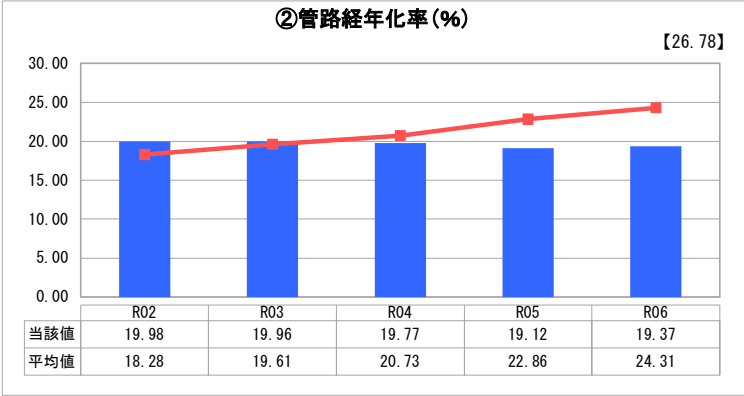
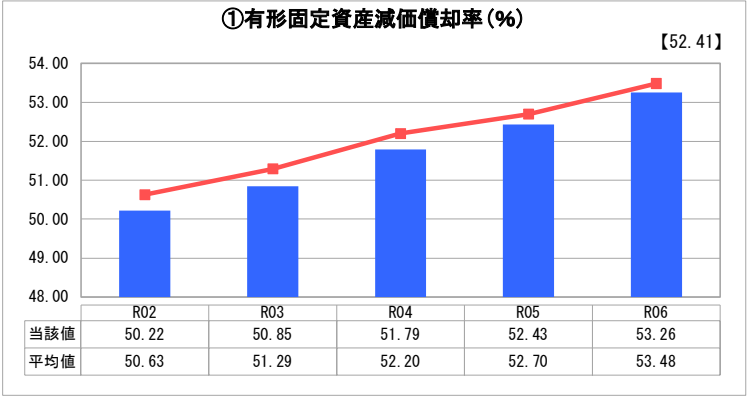
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
21,306	180.26	118.20
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
21,025	43.70	481.12

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
経常収支比率は、黒字を示す100%以上を継続して維持しており、今後の更新投資等のための財源は確保されている。
- ②累積欠損金比率
営業活動により生じた損失はなく、給水収益は横ばいであることから、当面欠損金は発生しないと見込まれる。
- ③流動比率
継続的に100%を超え健全な数値を保っており運営資金は十分に確保されている。
- ④企業債残高対給水収益比率
老朽管更新事業について起債借入しているが、償還は順調に進んでおり、給水収益は横ばいのため比率は安定している。
- ⑤料金回収率
平均値を上回っているが、物価高騰等に伴い費用が増加傾向であるため、支出内容を精査し費用削減に努め、更新投資に充てる財源が確保されるようにしていく必要がある。
- ⑥給水原価
前年度より減少しているが、物価高騰や人件費増により総費用が増加傾向であるため、今後も引き続き投資の効率化や維持管理費の削減などの経営改善に努めていく必要がある。
- ⑦施設利用率
季節により使用水量に変動はあるが、継続して平均値を上回っており適切な施設規模を維持管理している。
- ⑧有収率
継続して実施している漏水調査業務により、漏水等の原因の特定と、早期の修繕につながっていることから、給水される水量を収益に結びつけることができている。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率
年々率が上がっている傾向にあるため、計画的な施設更新が必要である。
- ②管路経年劣化率
他団体が右肩上がり数値が上がる中、老朽管更新事業を本格化させたことにより、ここ数年は数値が横ばいとなっている。しかしながら依然として更新が必要な管路は多くあるため、今後も事業費の平準化を図りながら計画的に更新していく必要がある。
- ③管路更新率
令和2年度から令和6年度まで高島地区中心部の老朽管更新事業を実施したことにより管路の更新が進んだ。当事業は終了となるが、今後は全町的に継続して計画的な更新事業を図る必要がある。

全体総括

経営状況や収益状況は概ね良好であるが、物価高騰等により費用が増大しているため、支出内容の精査が必要である。また、施設の老朽化が進んでいることから、これまで蓄えた資金を活用して計画的な更新事業を行う必要がある。令和2年度からの重点事業であった高島地区中心部の老朽管更新事業は完了したが、今後は令和7年度に経営戦略を見直し中長期的な計画を定め、老朽管や施設の更新を進めていく。

また、給水人口の減少、節水器具の普及により、料金収入が減少していく見込みであることから、将来的には、料金体系の見直しや広域連携による事務の効率化を検討する必要がある。